



追加型投信 / 国内 / 株式

THE日本株オープン(円投資型) / (米ドル投資型)

決算・分配金のお知らせ

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2017年12月5日

平素は「THE日本株オープン(円投資型) / (米ドル投資型)」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、当ファンドは2017年12月5日に第7期(2017年9月6日～2017年12月5日)の決算を迎え、決算日の前営業日の基準価額に応じて、(円投資型)は当期の分配金を600円(1万口当たり、税引前)、(米ドル投資型)は当期の分配金を600円(1万口当たり、税引前)としましたことをご報告いたします。
今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

分配金と基準価額(2017年12月5日)

(円投資型)

(米ドル投資型)

分配金 (1万口当たり、税引前)	600円
基準価額 (1万口当たり、分配落ち後)	12,014円

【分配金実績(1万口当たり、税引前)】

第3期 (2016年12月)	第4期 (2017年3月)	第5期 (2017年6月)
0円	300円	300円
第6期 (2017年9月)	第7期 (2017年12月)	設定来累計
400円	600円	1,600円

分配金 (1万口当たり、税引前)	600円
基準価額 (1万口当たり、分配落ち後)	11,927円

【分配金実績(1万口当たり、税引前)】

第3期 (2016年12月)	第4期 (2017年3月)	第5期 (2017年6月)
0円	200円	200円
第6期 (2017年9月)	第7期 (2017年12月)	設定来累計
300円	600円	1,300円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額等の推移(期間:2016年2月5日～2017年12月5日)

(円投資型)

(米ドル投資型)



・基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日の前営業日を10,000として指数化しています。
・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。
・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。
また、税金・手数料等を考慮していません。

THE日本株オープン(円投資型) / (米ドル投資型)

第7期の投資環境と当ファンドの運用状況

【投資環境】

＜国内株式市況＞ 9月末にかけては、衆議院解散報道を受けて安倍政権の基盤強化や経済政策への期待が広がったことや、トランプ米大統領が税制改革案を公表したことなどを背景に、国内株式市況は堅調に推移しました。10月に入り、与党優勢と報道されると海外からの資金流入も顕著となり、日経平均株価は歴代最長となる16連騰を記録するなど国内株式市況は大きく上昇しました。11月末にかけては、高値警戒感もあるものの、国内企業の堅調な決算発表を受けて国内株式市況は底堅く推移しました。

＜為替＞ 当期前半は、緊迫化した米朝関係が一時、緩和に向かったことや日米の中央銀行の金融政策の差に注目が集まったことなどから米ドル(対円)は上昇しました。当期後半は、10月31日から11月1日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)において引き続き物価の上昇が弱いことが示され、今後の利上げが緩やかになるとの見方が強まったことなどから、米ドル(対円)は下落しました。

【運用状況】(2017年9月5日～2017年11月30日の基準価額(分配金再投資)騰落率)

・THE日本株オープン(円投資型) 16.1% 上昇

・THE日本株オープン(米ドル投資型) 19.3% 上昇

(2017年11月30日現在)

今後の市況見通しと運用方針

【国内株式市況の見通し】

2017年度上期の国内企業業績は、世界景気の回復などを背景に前年度比2ケタ増益となりました。好調な外部環境のみならず、ガバナンス改革が着実に進展していることも国内企業の収益構造の改善を下支えているものと思われます。また、12月上旬には安倍内閣による「人づくり革命」と「生産性革命」を柱とする新しい政策パッケージの策定が行われます。日本の人材力の向上や国内企業の生産性の向上などに資する政策が実行されることになれば、国内企業の稼ぐ力は一段と強化され、国内株式市況の魅力度は高まるものと期待されます。

【米ドル/円の見通し】

米連邦準備制度理事会(FRB)が公開したFOMCの議事要旨からは、12月に利上げを行う可能性が示唆されています。日米の金融政策の違いを背景に、基本的には米ドル高・円安方向が予想されます。しかしながら、現状の米国の物価上昇は緩やかなものとなっていることから、利上げ期待が剥落する場合は、円買いが生じる可能性もあり、ボックス圏での動きとなることも想定されます。

【今後の運用方針】

引き続き投資方針に沿って、主要事業の収益動向、株主への姿勢等を多面的にチェックしながら、競争力のある優良割安株を厳選して運用を行ってまいります。

※「今後の見通し」は作成時点での見解であり、市況動向によっては見通しの通りにならない場合があります。

TOPIX(配当込み)の推移

(期間:2016年2月5日～2017年11月30日)

(2016年2月5日=100として指数化)



米ドル(対円)の推移

(期間:2016年2月5日～2017年11月30日)



・計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

■ 東証株価指数(TOPIX)

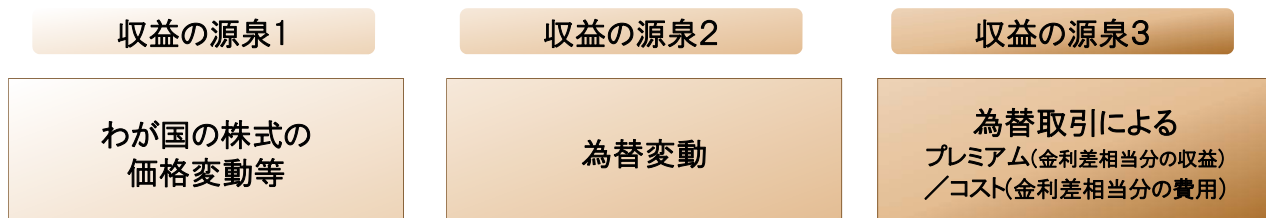
東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

THE日本株オープン(円投資型) / (米ドル投資型)

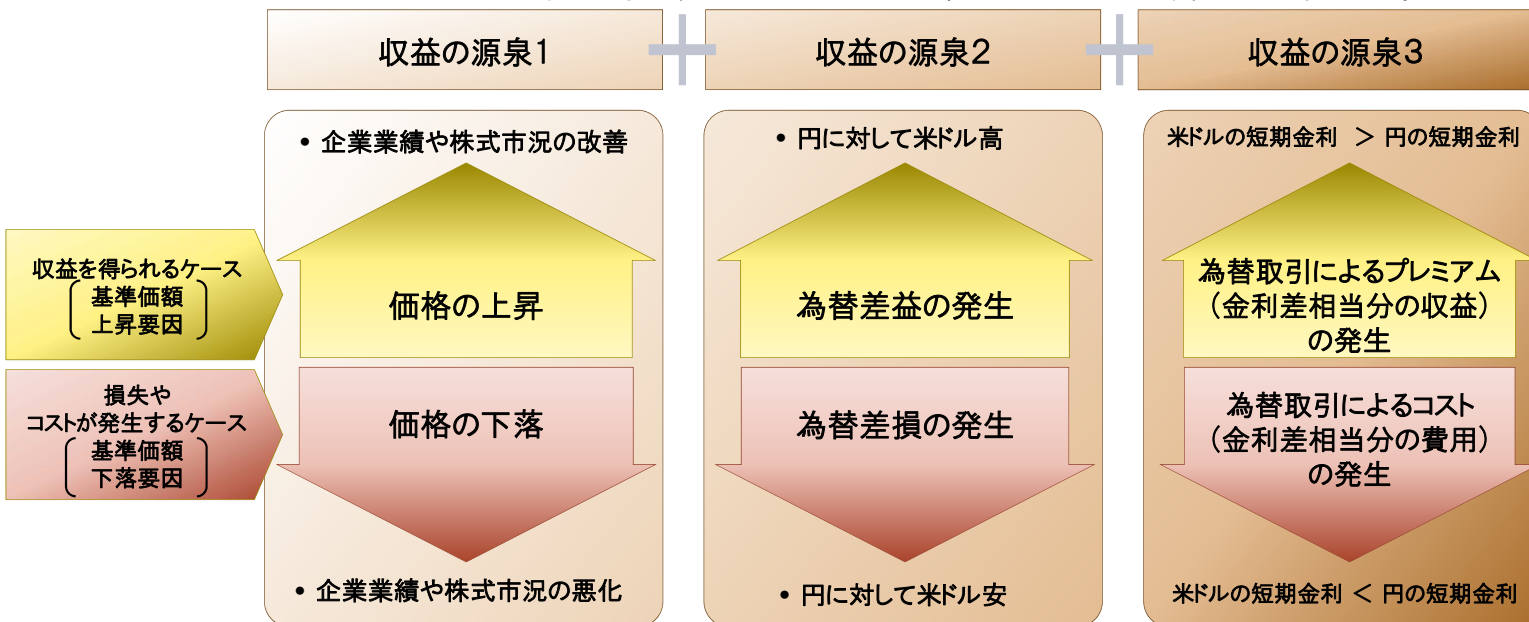
米ドル投資型のファンドの収益のイメージ

- 米ドル投資型の収益の源泉としては、以下の3つの要素があげられます。



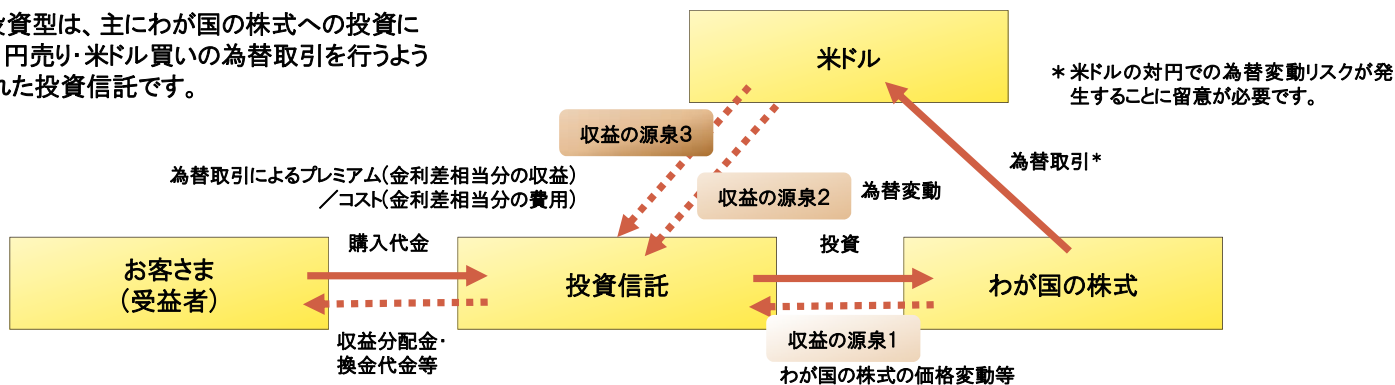
- 米ドル投資型における収益の源泉と基準価額の変動要因は以下の通りです。

それぞれの収益源に相応してリスクが内在していることに留意が必要です。



米ドル投資型の収益のイメージ図

米ドル投資型は、主にわが国の株式への投資に加えて、円売り・米ドル買いの為替取引を行うよう設計された投資信託です。



* 為替市場の状況によっては、為替取引によるプレミアム/コストが、金利差相当分からカイ離する場合があります。

THE日本株オープン(円投資型) / (米ドル投資型)

ファンドの目的

THE日本株オープン(円投資型) (以下、円投資型といいます。)

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、主として値上がり益の獲得をめざします。

THE日本株オープン(米ドル投資型) (以下、米ドル投資型といいます。)

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、保有円建て資産について、円売り・米ドル買いの為替取引を行い主として値上がり益の獲得をめざします。

ファンドの特色

1 THE日本株マザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の株式に投資を行います。

- マザーファンドの組入比率は高位を維持することを基本とします。
- 競争力があり成長が見込める優良企業の株式の中から、割安と判断される銘柄を厳選して投資します。
- 実際の運用にあたっては、主にTHE日本株マザーファンドを通じて投資を行います。

【競争力があり成長が見込める優良企業とは】

業界内のシェアや株主還元、財務の健全性等の観点で、相対的に評価が高く、利益成長が見込めると委託会社が判断する企業をいいます。

2 円投資型と米ドル投資型の2つのファンドがあります。

◆円投資型

- 保有円建て資産について、為替取引を行いません。

◆米ドル投資型

- 保有円建て資産について、円売り・米ドル買いの為替取引を行います。
- 為替取引とは、為替予約取引等を利用することにより、円売り・米ドル買いを行うことをいいます。
- 為替取引を行うことにより、米ドルベースでのわが国の株式への投資効果を追求します。
- 円売り・米ドル買いの為替取引を行うため、米ドルの対円での為替変動の影響を大きく受け、「為替差益」または「為替差損」が生じます。
- 為替取引を行うにあたっては、日米間の金利差に基づく「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)」または「為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)」が生じます。
- 米ドルの対円での為替変動リスクが発生することに留意が必要です。

* 為替市場の状況によっては、為替取引によるプレミアム/コストが、金利差相当分からカイ離する場合があります。

市況動向および資金動向等により、特色1、特色2のような運用ができない場合があります。

3 年4回決算を行い、決算日(3・6・9・12月の5日(休業日の場合は翌営業日))の前営業日の基準価額に応じた分配をめざします。

- 分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 原則として、決算日の前営業日の基準価額に応じ、以下の金額の分配をめざします。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。また、決算日の前営業日から決算日まで基準価額が急激に変動した場合等には、以下の分配を行わないことがあります。
- 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

決算日の前営業日の基準価額	分配金額(1万口当たり、税引前)
10,500円未満	経費控除後の配当等収益の範囲内
10,500円以上11,000円未満	200円
11,000円以上11,500円未満	300円
11,500円以上12,000円未満	400円
12,000円以上12,500円未満	500円
12,500円以上	600円

※ 基準価額が上記の一定の水準に一度でも到達すればその水準に応じた分配を続ける、というものではありません。

※ 分配により基準価額は下落します。そのため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。

ファンドのリスクについては、「投資リスク」をご参照ください。

THE日本株オープン(円投資型)／(米ドル投資型)

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの**運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。**

したがって、**投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。**

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

◆価格変動リスク

株価は、企業活動や業績、市場・経済の状況、政治情勢等を反映して変動し、基準価額はその影響を受けます。組入株式の価格の下落は、基準価額の下落要因となります。

◆信用リスク

組入有価証券等の価格は、その発行体等の信用状況の影響を受けます。発行者等の経営、財務状況の悪化やその懸念が生じると、有価証券等の価格は下落し、基準価額が値下がりする要因となります。また、有価証券等の配当金や利払い・償還金の支払いが滞ること、有価証券等の価値がなくなることもあります。

◆流動性リスク

株式を売買しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により取引が制限されている場合には、市場実勢から期待されるより不利な価格での取引を行わざるをえないことがあります。また、必要な売買の一部またはすべてを行うことができないこともあります。

◆為替変動リスク

THE日本株オープン(円投資型)

組入円建資産について、為替取引を行わないため、為替変動リスクはありません。

THE日本株オープン(米ドル投資型)

組入円建資産について、円売り・米ドル買いの為替取引を行うため、基準価額は米ドルの対円での為替変動の影響を受けます。為替取引を行う場合、米ドル金利が円金利より低いときには、これらの金利差相当分が為替取引によるコストとなり、基準価額の変動要因となります。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上の為替取引によるコストとなる場合があります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

お客さまにご負担いただく費用

◎お客さまが直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入価額に対して、 上限 3.24%(税抜 3.00%) (販売会社が定めます) (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。) また、(円投資型)(米ドル投資型)間のスイッチングを行う場合の購入時手数料は、販売会社が定めています。くわしくは販売会社にご確認ください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 年率1.5552%(税抜 年率1.4400%) をかけた額
	その他の費用・手数料	監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※ 運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※ 上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

■その他の留意点

収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

本資料に関してご留意いただきたい事項

- 本資料は三菱UFJ国際投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。／銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

THE日本株オープン(円投資型) / (米ドル投資型)

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 / 販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位 / 販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	<p>■円投資型 金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。</p> <p>■米ドル投資型 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。</p> <p>■各ファンド 信託金の限度額に達しない場合でも、ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入の申込みの受付を中止することがあります。</p>
スイッチング	各ファンド間でのスイッチングが可能です。 販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。 スイッチングを行う場合の購入時手数料は、販売会社が定めています。また、スイッチングにより解約をする場合は、解約金の利益に対して税金がかかります。くわしくは販売会社にご確認ください。
信託期間	2025年12月5日まで（2016年2月5日設定）
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年3・6・9・12月の5日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年4回の決算時に分配を行います。 / 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社 お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
株式会社三菱東京UFJ銀行 (委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○

※今後、上記の販売会社については変更となる場合があります。

委託会社およびファンドの関係法人

- 委託会社 三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
- 受託会社 三菱UFJ信託銀行株式会社

- 販売会社 販売会社の照会先は下記の通りです。
三菱UFJ国際投信株式会社
TEL 0120-151034(フリーダイヤル)
受付時間 / 営業日の9:00~17:00
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>